

# 学園理念

## 「人を育てる」

### 行動基準(決定判断基準)

- ・ 秩序があるか
- ・ 固定的でないか
- ・ 真実であり誠実であるか
- ・ 自分の成長にかなうか
- ・ 全体の利益にかなうか
- ・ 未来へ繋がるものであるか
- ・ 和やかな調和があるか

学校法人 吉川学園

# 早苗幼稚園理念

- ・自立した人
- ・豊かな人生を歩める人
- ・他者に貢献できる人

## 「簡単なことを正確に」

「簡単なことを正確に」この言葉は吉川学園が設立された当初より、その創設者が、何事に対しても取り組む際に常に持ち続けた精神の1つです。

この「簡単なことを正確に」の精神は、現在でも全職員の間で共有され続けています。そしてこの精神は、当学園の子ども達に対する教育指針の、大きな柱の1つでもあります。

なぜなら、この言葉には子どもも大人も大切にしたいメッセージが、いくつも込められているからです。

一つ例を挙げるならば、「簡単なことを正確に」は、何事も基本が大切である、ということを伝えてくれます。それは、「どのような偉大な事であっても、それは誰もが出来る様な事かも知れない、小さな事の積み重ねによって成されるものである」ということを私達に教えてくれます。

大切な事は、大きな夢を持つ事と、それを達成する為に、目の前の1つ1つの小さな事を丁寧に行うことだと思います。

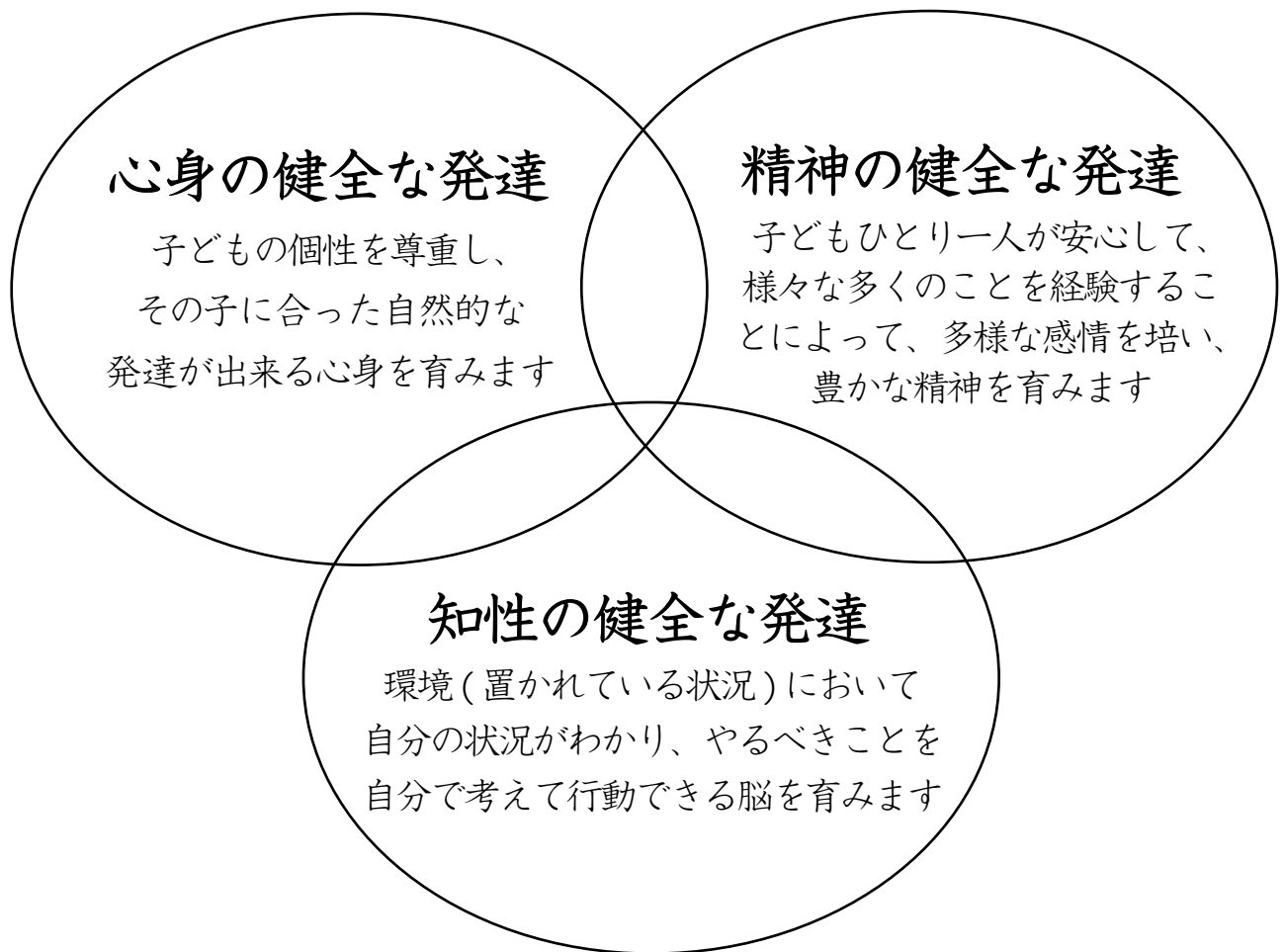
私達の場合は、子ども達ひとり一人に対し丁寧に大切に触れ合うことはもちろんのこと。子ども達の日々の園での生活で、子ども達が体験する出来事ひとつ一つが、子ども達の成長の糧となるように、大切に丁寧に扱ってゆくことを示している言葉だと思っています。

「簡単なことを正確に」、一見すると単純な言葉の様にも捉えられる言葉でもありますが、私達は日々、この精神の根底に人間として、また教育者として大切にすべき意味が込められていることに気付かされています。

# 子どもの姿

## 全人格の健全な発達における大切な要素

- ・自立を第一の目標とし、その為の基礎となる自信と能力を獲得し、何事にも主体的に取り組むことができる。
- ・豊かな知性、感性、論理性のバランスのある生き方が出来る。
- ・自身の培った個性や能力を発揮し、自己表現を通して他者の役に立つことができる。



## 当園の考える「健全」とは

「健全な状態」という一律の（絶対的な）状態があり、それに対して何かが欠けているという意味合いではなく、ひとり一人の子どもが、どの様な状態であっても、今その子どもが可能な限りより良い方向へ向いている状態である。

## 早苗幼稚園の子どもたちの育ち

早苗幼稚園の園児は  
「こころが開放出来る環境で  
豊かな  
身体活動、精神活動、知的活動を通して  
生涯に渡って幸せで豊かな人生を送れる為の  
全人格の基礎を創造します。」

## はじめの一步をお手伝いします

親から離れて、初めての新しい環境での生活が始まる子ども達。  
新しい環境は誰でも不安になるものです。  
当園では、ひとり一人のお子さんの発達段階をよく見極めた上で、  
あたたかい環境や丁寧な配慮を持って、  
お子さんの「はじめの一步」を援助します。  
私達は、お子さんの主体的な活動を通して「自立へ向かう力」の  
創造をお手伝いします。

## 皆さんの子育てをお手伝いします

お子さんだけでなく、子育てをする  
保護者の方も、初めての事にはもちろん不安を感じます。  
当園では、地域の子育て中の保護者の方の悩みや不安を  
共に解決し、親子共に成長できるお手伝いに取り組んでいます。

# 早苗幼稚園の職員として

## －無条件の愛の精神－

### 偏見を持たない

偏見がある、つまり偏った目で見ると言うことは、事実が見えなくなると言うことです。

そうすれば、関わる人、ひとり一人の個性や可能性を伸ばすチャンスを見逃してしまいます。

偏見を持たず、常に相手を尊重し、変化や、その兆しに柔軟に対応するように心がけています。

### 人を信じる

人がより良くなろうとする為には、まず信じることから始めなければなりません。

それは自分を信じることであり、相手を信じることであります。

その人に秘められた可能性を信じて疑うことなく接し、応援することで、その人の可能性を最大限に引き出すように心がけています。

### 相手の立場に立つ

人との関わりと言うものは、コミュニケーションで成り立っています。

コミュニケーションの基本は相手を理解することです。

ここでの「理解する」とは、相手の個性や置かれている状況を踏まえて、相手が本当に何を望んでいるのかを分かってあげることです。

その為の基本として「聴く」という意識を大切にしています。

相手の話を「聴く」というのは、その時間は目の前の相手の為だけに使うと言う意識を持って聴くということです。

### 誠実である

誠実であると言うことは、嘘がないということです。

そしてそのことは他者にだけでなく、自身の言動や生き方までも誠実であることです。

嘘は突き詰めれば、自身の保身の為のものです。

誠実さは全体への貢献の精神へ繋がると考えています。

# 教師の心得

## 1. 教師は指導者である

教師は、当園の教育方針の基本原理と、それに基づいたカリキュラムの取扱い方に熟知した、指導者である。

教師は「教える」ことよりも、子どもが本来的に持っているものを「導く人」である。

## 2. 教師は常に成長する態度を持つ

教師は、今の自分がどのような状態であるのかを客観的に把握し、自己自身の能力と行動を客観的に反省することが出来ねばならない。その態度は、自身を成長させるものである。

「成長する人」である教師の生活態度とは、生き方、存在、考え方、人格、言動であり、それらは子ども的人格形成に深く影響を与えることを知らねばならない。

従って、そのような教師になる為には、性格を訓練し、精神を準備するというような、常に「成長する人」でなくてはならない。

## 3. ニュートラルに子どもを見ることが出来る教師

教師は自身をニュートラルにして、自身の偏見、固定観念を捨てて、その上で子どもを理解し援助しなければならない。

## 4. 教師は子どもが空の器でないと認識する

子どもは心身の自立の欲求やその為のエネルギーを自身の内に秘めている。

つまり、子どもというものは、自身の内側から成長してゆくものであり、大人（個人）の知識や経験で満たされる為にある空の器ではない。

従って、教師はそのような子どもの事実を認めて、自身の自己中心性や子どもに対する権威的な態度に気付かなければならない。

## 5. 常に子どもが主役であり、教師は援助者である。

子どもは主役であるので、常に前面に立て、子どもが積極的に活動できるように計画、準備し、援助していくのが教師の基本姿勢である。

教師は、子どもは本来、自己発達の能力が備わっていることの認識を持ち、子ども自身の経験を通して子どもが一人でできるように、手助けしなければならない。

## 6. 教師は観察者である

教師は子どもを理解し、援助する為に、子どもの自然現象を観察する意欲と能力を身に付けなければならない。

教師は観察者としての自分を客観視し、対象に最大の興味を持つこと。

教師は子どもをよく観察し、研究することによって子どもに対する深い知識を持ち、ひとり一人の子どもの人格の発達と自己発展を援助しなくてはならない。

## 7. 教師の精神の教化

教師は常に、子どもや環境の観察に対して、技術的な側面よりも、実践に取り組む態度や姿勢、又は考え方という様な内面的要素を日々意識して取り組むことで身に付けてゆくことが大切である。

その際の基本的考えとして以下3点を挙げる

- ①教師は自身や子ども、及び関わる全ての人に対して、関心を持つこと。
- ②子どもはひとり一人が違った個性を持つ生きた個人である、との見方のできる能力を持つこと。
- ③子どもは常に可能性に向かい成長していくものである。教師自身も子どもそのものから、教師としての自らの使命を発見し、教育者として自身も成長し続けなければいけない。

これらのことは常に実践と観察を通して自ら発展させなければならない。

## 8. 教師は環境の準備者である

教師は観察者としての役目に加えて、子どもの環境の準備者である。

子どもの環境には、物的環境、人的環境(教師)がある。

そして、それらの準備とは、物的環境においてはクラスのレイアウトや教材の準備等、教師の準備とは子どもに対する指導計画や教師の心構え等である。

環境の準備はとても大切な仕事であるから、教師はそこに多くのエネルギーと時間を注ぐ必要がある。

## 9. 教師は園の雰囲気と秩序や活動計画の責任者である

すべての環境は秩序正しく、美的で、清潔で完全な状態に保たれるべきである。

指導者である教師は、園の雰囲気と秩序や活動計画、それに伴うひとり一人の子どもの変化に責任を持つべきである。

## 10. 環境である空間に意味を持たせる

子どもを取り巻く全ての空間を「子どもの環境」と捉え、そこには教師の意図がなければならぬ。

つまり、教師は、子どもを取り巻く空間に、子どもにとって良いと考える「意味」を持たせる必要がある。

## 11. 教師は常に子どもの模範である

教師は重要な環境の一つである。その為、教師は子どもの模範となる。

従って、教師は教育の内容の実践者である前に、自身が環境の一つという認識を持つべきである。

## 12. 教師は魅力的で品格のある人でなくてはならない

教師は魅力的でなくてはならない。ここでの魅力的であると言う意味は、整然として、素直で、落ち着いているというような、意識や態度も含まれる。

「魅力的で品格のある人」は子どもの尊敬と憧れを獲得する前提であり、教師は子どもにとって最も重要な人物の一人でなければならない。

## 13. 教師は必ずしも完璧な人間でなくて良い

教師は子どもの模範であるべきではあるが、完成された「完璧な人間」でなくて良い。教師自身の「誤り」に対する態度は、子どもとの関係において親密感を培える機会である。

また子どもにおいても、「誤り」は貴重な体験である。子どもの経験する「誤り」も子どもが、自身をより発展させる為の材料であることを教師は自身の態度を持って子どもに示唆する。

## 14. 教師は子どもと環境との接点であり架け橋である

環境と子どもの関わりにおける教師の解釈や、子どもへの勇気付け、或いは慰め、それらのような愛情そして尊敬が導きとなり、子どもは学びの源泉である環境の中からより多くの学びを得ることが出来る。

そのような教師の環境に対する態度や伝え方が、子どもと環境をつなぐ接点であり、架け橋となる。

学校法人 吉川学園 早苗幼稚園

〒570-0072 守口市早苗町6番9号

TEL 06-6991-2595

FAX 06-6991-2656

2017年5月第1版 第1刷発行